

地域福祉活動計画評価シート

重点1 高齢者福祉の充実

1. 生活支援ネットワーク事業の充実

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
① 11地区社協のすべてからコーディネーターを配置する。(コーディネーター20人体制の確立) 【フォローアップ】 利用者数及びサポーター数拡大のため、支援内容を再検討する。(アンケート結果の反映)	コーディネーターは12名である。現在はすべての地区から登録されていないが対応可能である。 評価 3	コーディネーターは10名である。 同左 評価 3	コーディネーターは10名で、目標人数には至らなかったが、運営上は充足している。支援内容の再検討は1-1-③のとおり。 評価 3
	今後の課題 支援依頼者数の拡大。 20名体制の確立。	今後の課題 利用者、サポーターにアンケートなどにより対応	今後の課題 コーディネーターの後進育成と地域への認知・浸透。
② 利用者の支援は、利用者の住んでいる地区のサポーターで支援できる(サポーター100人体制) 【フォローアップ】 1-1-①と同様。	サポーターは59名である。現在は全ての地区から登録されており、対応可能である。 評価 3	同左 評価 3	サポーターは39名で、目標人数には至らなかったが、全ての地区で支援可能な体制が整っている。支援内容の再検討は1-1-③のとおり。 評価 3
	今後の課題 支援依頼者数の拡大。 100名体制の確立。	今後の課題 利用者、サポーターにアンケートなどにより対応	今後の課題 地域への一層の認知・浸透。
③ 自立支援内容の充実 【フォローアップ】 1-1-①と同様。	運営委員会開催 4回 月1回の安心電話サービスを試験的に実施中。 評価 2	安心電話サービスを本格的取り組み 評価 3	平成27年度中にアンケートを実施のうえ、内容を検討し、28年6月より充実が図られている。 評価 3
	今後の課題 支援依頼項目は多様化している中、継続的な検討を期待する。	今後の課題 利用者、サポーターにアンケートなどにより対応	今後の課題 類似サービスとの内容の棲み分けと連携。ケアシステムにおけるあり方の検討。
④ コーディネーター、サポーター会議の定例化と研修の充実 【フォローアップ】 サポーター会議の定例化を図る。	コーディネーター会議は2か月毎、計5回開催。 他所活動発表会の見学は前進。 サポーター会議の定例化は進捗していない。 評価 2	コーディネーター会議は2か月毎、計6回開催。 サポーター会議の定例化に向け準備中 評価 3	コーディネーター会議、サポーター会議ともに定例化が図られ、研修も平成28年度から実施。 評価 3
	今後の課題 サポーター会議開催またはアンケート等により意見集約を図る。	今後の課題 サポーター会議開催	今後の課題 社会資源の整理と知識習得。支援内容の平準化に向けた研修の開催。
⑤ 高齢者へのサービス一覧表の作成	情報収集段階 評価 2	同左 評価 2	形にはなっていないが、地域包括ケアシステムの構築に向け町と連携し作成中。 評価 2
	今後の課題 高齢化が進む中、高齢者の目線で作成する。	今後の課題 介護保険制度の改正もあり、行政と連携し進める	今後の課題 類似サービスとの内容の棲み分けと連携に向けた早期作成。

地域福祉活動計画評価シート

重点1 高齢者福祉の充実

2. 高齢者サロン等見守り事業の推進

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
① 全地区社協にサロン（居場所づくり）を立ち上げる。 【フォローアップ】 ほぼ全地区にサロンが立ち上がったため、今後は活動内容の充実を図っていく。	全11地区の内5地区から6地区へと増加した。平成26年立ち上げ検討が始まった地区もある。 開催場所は6地区計11か所 評価 3	全11地区の内6地区から7地区へと増加した。さらに27年度には2地区開催予定となっている。 開催場所は7地区計11か所 評価 3	立ち上げが9地区となり、残る2地区も、検討会や独自のクラブ活動を展開。内容充実に向け情報交換会も開催している。開催場所は9地区計13か所 評価 3
	今後の課題 立ち上げていない地区（独自活動地区は別途）への支援。	今後の課題 同左	今後の課題 同左
② 地域に根ざした特色あるサロンづくりの推進。 【フォローアップ】 サロン担当者交流会等により活動情報を共有化し、内容の充実を図る。	開催地区は地域独自性をもって活動中である。 評価 3	同左 評価 3	1-2-①と同様。 評価 3
	今後の課題 開催各地区の活動内容の情報の共有化を図り、未開催地区への支援に活用する。	今後の課題 同左 サロン担当者交流会開催	今後の課題 同左 サロン担当者交流会開催
③ 世代間交流、生活支援の組み合わせ、意見交換の機会づくり。	開催地区は地域独自性をもって活動中である。 評価 2	開催地区は地域独自性をもって活動中であるが、現在は進捗していない。 評価 2	サロン事業の定着に伴い、地域住民の交流や情報交換の場としての活用は進んでいる。 評価 2
	今後の課題 サロン活動のさらなる活性化項目であり進展を期待する。	今後の課題 同左	今後の課題 同左
④ 安心電話等による見守り推進。 【フォローアップ】 生活様式の多様化などに見合う重層的な見守り体制の確立を目指す。	試験的に安心電話サービス開始中。 評価 2	希望者増加中 一部地域では訪問事業開始 評価 3	安心電話利用者は増加が続いており、地域における訪問事業なども含め、重層的な見守り体制が徐々に進展している。 評価 3
	今後の課題 試験サービスの結果をまとめ、早期の進展を期待する。	今後の課題 生活様式の多様化に見合う重層的な見守り体制の確立	今後の課題 見守り側への相談・助言機能の付加。

地域福祉活動計画評価シート

重点1 高齢者福祉の充実

3. アクティブ高齢者づくり事業の推進

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
①シニア層のボランティア活動や地域福祉活動への参加を支援し、元気な高齢者づくりに取り組む。 【フォローアップ】 2025年問題を見据え、1-3-①-a.b.c.各項目の更なる取組みにより、支え合う地域の担い手としての高齢者づくりを推進する。	町、自治会、地区社協、老人クラブ連合会等連携を密にしながら進捗している。 【評価】 3 今後の課題 2025問題に向けての重要テーマ。更なる進捗を期待する。	同左 【評価】 3 今後の課題 同左	ボランティア大学や地区社協等への健康講座等の情報提供など、進展が見られるが、地域福祉活動の総体的な人材難は解消されていない。 【評価】 2 今後の課題 地域資源マップの早急な整備と活動内容の一層の周知。
①a町や各団体と、シニア層向け健康講座、趣味活動等について情報の共有化。 【フォローアップ】 行政と連携し情報の一元化を図りつつ、資源マップ化を目指す。	1-3-①に同じ 【評価】 3 今後の課題 1-3-①に同じ	1-3-①に同じ 【評価】 3 今後の課題 介護保険制度の改正に伴い、行政と連携し、情報一元化を図る	1-3-①に同じ 【評価】 2 今後の課題 1-3-①に同じ
①bシニア層の活動の場の確保。 【フォローアップ】 行政と連携し情報の一元化を図りつつ、資源マップ化を目指す。	1-3-①に同じ 【評価】 3 今後の課題 1-3-①に同じ	同左 【評価】 3 今後の課題 同左	ボランティアやサロンなど、活動の場は着実に増加している。 【評価】 3 今後の課題 資源マップの早急な整備による活動の場への人材誘導。
①cシニア層向けの意識改革やボランティア活動、地域福祉活動参加のための講座開設。 【フォローアップ】 1-3-①-aの取組みによる資源マップ化と情報提供を図りつつ、地域のニーズ確認も含めた活動を検討する。	1-3-①に同じ 【評価】 3 今後の課題 1-3-①に同じ	全体には進捗しているが地域リーダー関係は進捗していない 【評価】 3 今後の課題 地域ニーズ確認も含めた活動	ボランティア講座は順調に実施しているが、地域福祉活動参加のための講座や地域資源マップによる情報提供など、活動参加への誘導が遅れている。 【評価】 2 今後の課題 地域福祉への参画の必要性の周知と情報提供。活動へのコーディネート。

地域福祉活動計画評価シート

重点1 高齢者福祉の充実

4. 緊急事対応体制の整備

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
①緊急通報システムの推進。 【フォローアップ】 周知活動を継続し、件数増を目指す。	現状把握中 広報紙によるPR実施 評価 2	広報紙に掲載後、問い合わせが増加した 評価 3	制度の改善と周知が図れている。 評価 3
	今後の課題 周知方法の検討	今後の課題 同左	今後の課題 同業他社のシステムの検証。
②地区防災での地区社協の役割整備。 【フォローアップ】 行政・自治会等との問題意識の共有により、地区社協の役割を明確化する。	現状把握中 評価 2	行政と問題意識を共有し、協議中 評価 3	地区社協の役割は、各地区の実情に応じたものとなる。 ※評価対象外とする。 評価 -
	今後の課題 行政との役割分担の明確化	今後の課題 同左	今後の課題
③緊急時対応。 (町、社協、安心電話での安否確認) 【フォローアップ】 関係機関の連携による見守りネットワークの構築を目指していく。	各種事業の活動の中で対応している。 評価 2	行政による災害時要支援者登録の構築等が進捗中 評価 3	安否確認のためのリストについては、担当ごとに整理できているが、行動のシミュレーションができていない。 評価 2
	今後の課題 町、自治会、地区社協、老人クラブ連合会等と連携し見守りネットワークの構築と充実	今後の課題 同左	今後の課題 社協本体の災害時マニュアル整備。

地域福祉活動計画評価シート

重点1 高齢者福祉の充実

5. 地域福祉自主事業の支援 ※平成27年度新規追加項目

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
①地域福祉自主事業支援制度の創設。	—	—	地域福祉自主事業実施団体等補助金交付要綱を制定し、1地区への支援を実施。
	評価 ー	評価 ー	評価 2
	今後の課題	今後の課題	今後の課題 地域包括ケアシステム構築に向けた社協の役割の整理。
②各地域における横断的組織立ち上げの検討・推進。	—	—	横断組織が1地区で立ち上がっている。
	評価 ー	評価 ー	評価 2
	今後の課題 —	今後の課題 —	今後の課題 1-5-①に加え、地域福祉活動に資する組織の横断的連携の機運づくり。

地域福祉活動計画評価シート

重点2 福祉等ボランティア活動の充実

1. ボランティア活動の普及・啓発

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25~28年度
①町ボランティア大学（入門講座・一般講座）の充実。 【フォローアップ】 受講しやすい講座スタイルを検証しつつ、更なる充実を図る。	ボランティア大学・一般講座等進捗している。 〔評価〕 3	傾聴講座は前進、その他計画通り 〔評価〕 3	各団体、回を重ねることに内容に充実が見られる。 また、受講生の視点に立った受講スタイルの改善も図られている。 〔評価〕 3
	今後の課題 傾聴講座などさらなる前進期待する。	今後の課題 さらなる前進期待する。	今後の課題 開催日数、開催方法の再検討。
②啓発活動の推進。（ボランティアニュースの発行/ホームページでの情報発信） 【フォローアップ】 ボランティアニュースの発行が未実施。他市町の発行状況等を検証する。	社協登録ボランティアグループの冊子を作成した。 また同じ内容をホームページに公開した。 〔評価〕 3	ボランティアニュースは発行されていないが、他は良く進捗している。 〔評価〕 3	ホームページでの情報発信のほか、ボランティアニュースに代わる手段として、団体紹介冊子の作成・配布やボランティア大学開催など、啓発が図られている。 〔評価〕 3
	今後の課題 ボランティアニュースの発行	今後の課題 同左	今後の課題 視点を変えた情報発信内容の検討。
③ユース向け活動の推進。（中学生福祉体験） 【フォローアップ】 未実施中学校へのアプローチを検討する。	中学校への支援活動が実施されている。 〔評価〕 3	同左 〔評価〕 3	町内中学校2校のうち、1校では、毎年総合学習に取り入れられるようになったが、もう1校では単発的な福祉体験に留まっている。 〔評価〕 2
	今後の課題 構築されたネットワークを活用し、さらなる継続、前進期待する。	今後の課題 活動が継続されるようフォローアップすること。	今後の課題 未実施中学への継続的なアプローチ。

地域福祉活動計画評価シート

重点2 福祉等ボランティア活動の充実

2. ボランティア団体等の支援

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①ボランティア連絡会の再結成。	登録ボランティア団体の増加等活動は進捗している。 【評価】 2 今後の課題 連絡会再結成に向け、粘り強い働きかけの継続。	ボランティア連絡会の再結成までの機運がまだ高まっていない。 【評価】 2 今後の課題 同左	ボランティアグループへの育成支援は継続的に実施しているが、連絡会再結成に向けた機運は高まっていない。 【評価】 2 今後の課題 ボランティアグループのより一層の活性化。
②登録ボランティア団体の育成と支援の充実。 【フォローアップ】 重点1-3-①-aの資源マップ化と連動し、よりスムーズなマッチングを目指していくとともに、コーディネート業務のマニュアル化を図る。	連絡会解散時6団体 → 10団体と計画通り良く進捗している。 【評価】 3 今後の課題 更なる活動の継続を期待する。	10団体 → 9団体 であるが良く進捗している。 【評価】 3 今後の課題 同左	9団体→10団体に増加し、計画期間中にボランティア情報交換会参加団体が4団体増加した。ボランティア大学の開催などにより育成支援も進んでいる。 【評価】 3 今後の課題 ボランティアニーズの把握とコーディネート。
③活動紹介・広報活動の充実。 (ボランティアニュースの発行/ホームページでの情報発信) 【フォローアップ】 2-2-②と同様。	社協登録ボランティアグループの冊子を作成した。またホームページに公開した等進捗している。 【評価】 3 今後の課題 ボランティアニュースの発行	ボランティアニュースは発行されていないが、他は良く進捗している。 【評価】 3 今後の課題 同左	ボランティアニュースの発行に代わる手段として、広報紙の有効活用やその他の方策を実施するなど、情報発信が図れている。 【評価】 3 今後の課題 視点を変えた情報発信内容の検討。
④当事者団体の支援体制整備。 【フォローアップ】 当事者団体の自立に向け支援を継続する。	現状分析は済。 4つの当事者団体と都度対応しており、問題ない。 【評価】 3 今後の課題 将来、自立化に向けて	同左 【評価】 3 今後の課題 同左	団体において自立している部分を尊重しつつ、必要な支援を実施している。 【評価】 3 今後の課題 支援内容の精査とマニュアル化。
⑤当事者団体と登録ボランティア団体の連携。 【フォローアップ】 2-2-②と同様。	福祉ニーズが多様化している中、都度個別に対応している。 【評価】 3 今後の課題 更なる活動の継続を期待する。	同左 【評価】 3 今後の課題 同左	計画期間中、社協を介した個別の連携は徐々に進展しているが、団体間の連携に向けた積極的なコーディネートに至っていない。 【評価】 2 今後の課題 ボランティア団体紹介冊子を活用した連携に向けてのコーディネート。

地域福祉活動計画評価シート

重点2 福祉等ボランティア活動の充実

3. ボランティアセンターの充実

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①ボランティアコーディネートの充実と情報発信力の強化。 【フォローアップ】 2-2-②と同様。	町内の全ての施設・中高等学校を回り、進捗している。 ワークが構築された。 【評価】 3	町内関係施設・中高等学校とのネットワークは構築された。 【評価】 3	情報発信は進展しており、個別のコーディネートも散見されるようになって いるが、受動的なものが多い。 【評価】 2
	今後の課題 下記②、③の活動と連動しさらなる前進を期待する。	今後の課題 同左	今後の課題 ボランティア団体紹介冊子等の有効活用による積極的なコーディネート。
②ボランティアコーディネーターの育成及び配置。 【フォローアップ】 2-2-②と同様。	非常勤であるが配置され、その育成は前進している。 【評価】 3	正規職員（兼務）が配置されて、活動中 【評価】 3	正職員（兼務）の配置等、中長期的な視点での体制を整え、今後の育成・強化への土台はできている。 【評価】 3
	今後の課題 専任のコーディネーターの配置。	今後の課題 職員のさらなる育成 事業のマニュアル化	今後の課題 コーディネート業務のマニュアル化。
③ボランティアセンターの有効活用。 【フォローアップ】 2-2-②と同様。	室内の各種掲示、備品利用、配置工夫等により、利用者数が増大し、雰囲気良くなるなど相乗効果も生まれている。 【評価】 3	同左 【評価】 3	ボランティアセンターの活用が各団体に浸透している。 また、会議室も利用頻度が増加しており、有効活用が進んでいる。 【評価】 3
	今後の課題 常に改善し、さらなる前進を期待する。	今後の課題 同左	今後の課題 センター備品使用等のマニュアル化による利用団体の自立促進。

地域福祉活動計画評価シート

重点2 福祉等ボランティア活動の充実

4. 災害ボランティアの育成・組織化

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①災害ボランティアコーディネーター講座の実施と育成。 【フォローアップ】 受講者増を目指して、講座スタイルの再検証を行う。	災害ボランティアコーディネーター講座開催、進捗している。 災害ボランティアバス運行現地支援等大きく前進している。 〔評価〕 3	同左 〔評価〕 3	講座は定例的に実施しており、開催スタイルにも改善が見られる。災害ボランティアコーディネーターやセンターのあり方は団体と共に検討を進めている。 〔評価〕 3
	今後の課題 講座内容の充実と行政との連携 〔評価〕 3	今後の課題 講座は定着しているが、新しい取り組みの検討 〔評価〕 3	今後の課題 初級から中上級への繋ぎと災害ボランティアセンターのあり方の検証。 〔評価〕 3
②災害ボランティアリーダーの育成と支援。 【フォローアップ】 災害時における社協の役割を明確化する。	講座開催等で人材確保・育成が前進している。 〔評価〕 3	1-4-②、③と同類項目である。 〔評価〕 3	各種講習会により災害ボランティアが育成されている。また、取りまとめ役となるリーダーについても、2-4-①のほか、団体育成により進展している。 〔評価〕 3
	今後の課題 災害時、弱者支援活動等において、行政自治会と連携、役割分担の明確化 〔評価〕 3	今後の課題 同左 〔評価〕 3	今後の課題 災害ボランティアセンター立ち上げのシミュレーション及び各種検証。 〔評価〕 3

地域福祉活動計画評価シート

重点3 社会福祉協議会組織の強化

1. 地域福祉活動の普及・啓発

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①（仮称）地域福祉大学講座の企画と開催。 （地域福祉リーダーの育成、地区社協役員対象の講座実施）	事業に向けて外部関連団体見学等研修は前進している。 【評価】 2	開催に向け研修会に参加しているが、企画開催までには至っていない。 【評価】 2	地域福祉大学の開催には至っていないが、地域福祉の牽引役ともいえる社協役員等及び地区社協部会長向けの研修を実施した。 【評価】 3
	今後の課題 職員、地区社協役員だけでなく、多くの町民が参加できる講座の早期開催。	今後の課題 関連講座の開催期待します。	今後の課題 地域包括ケアシステム構築に向け行政と連携した意識啓発の実施。
②研修会の実施。	県社協主催の研修会への参加、他地区関連団体見学等前進 【評価】 2	実施に向け研修会に参加しているが、研修会実施までには至っていない。 【評価】 2	地域福祉の牽引役ともいえる社協役員・評議員や地区社協部会長向けの研修を実施した。 【評価】 3
	今後の課題 県社協主催研修会の活用	今後の課題 同左	今後の課題 3-1-①と同様。

地域福祉活動計画評価シート

重点3 社会福祉協議会組織の強化

2. 町社協事務局組織の活性化・拡充

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①現在の事業・活動の見直し。 (18事業の現状と課題抽出)	h26目標を各事業に掲げさせたこと、 規程、規則の見直し等少しずつ前進。 【評価】 2	各事業の問題点の把握、抽出中。 【評価】 2	PDCAサイクルを導入し、年度ごとの 事業精査の体制づくりができた。 事業の見直しについては、第2次地域 福祉活動計画策定過程で実施を予定。 【評価】 3
	今後の課題 各事業の年間活動計画の作成。 本テーマの早期取組完結。	今後の課題 地域福祉活動計画の評価と連動し、 PDCAにつなげる事	今後の課題 町の福祉施策の中における社協の役割 の明確化と事業見直し。
②人的確保の工夫。	事務局組織の活性化は、 3-2-①、③、④項目と共に、 意識改革は確実に前進している。 【評価】 2	財政が厳しい中で、増員は難しい。 組織の活性化、業務の効率化・合理化 等を図っている。 【評価】 2	事業見直しが優先のため、人的確保に 進展はない。 【評価】 2
	今後の課題 長期的な展望の策定。	今後の課題 3-2-①、②、④項目と共に取組、 長期的な展望の策定	今後の課題 町の福祉施策の中における社協の役割 の明確化と事業見直し。
③職員研修計画。	事務局組織の活性化は、 3-2-①、②、④項目と共に、 意識改革は確実に前進している。 【評価】 2	職員の研修計画は策定されていないが、 県社協主催の研修会には参加している。 【評価】 2	計画の策定に至っておらず、計画的 かつ総体的なステップアップに結び ついていない。 【評価】 2
	今後の課題 県社協主催研修会等外部研修参加への 仕組み作り。	今後の課題 個々に応じた研修計画の策定。	今後の課題 研修計画の作成。
④勤務等環境の整備 【フォローアップ】 給与規程の見直しなど、更なる環境整備 を図る。	事務局体制の整備（役割分担、 権限見直し）、規程・規則整理等 目標通り進捗している。 【評価】 3	事務局体制の整備が順調に推移。 給与規定の整備遅れ。 【評価】 3	労働衛生面、福利厚生面からの環境 整備は進展が見られるが、給与規程 見直しなど、労働条件面の整備が 遅れている。 【評価】 2
	今後の課題 さらなる前進を期待する。	今後の課題 体制の着実な遂行 給与規定の整備	今後の課題 職員の身分や給与規程等の早期整備。

地域福祉活動計画評価シート

重点3 社会福祉協議会組織の強化

3. 地区社協の機能強化

H28.9.1 企画部会

重点事業	平成25年度	平成26年度	期間全体 平成25～28年度
①地区社協の役割及び機能の明確化。 (行事主体から見守り・支え合い活動へ) 【フォローアップ】 地域包括ケアシステムなど、行政や自治会等との協働体制や、役割分担を明確化させていく。	現状把握中、2か年の活動計画の策定等進捗している。 評価 2	地区社協活動計画26、27年度が策定され、サロン活動などが進捗している。 評価 3	地区社協の活動も見守りに重点がシフトしている。役割の明確化や自治会等との協働体制については、地域包括ケアシステムの構築にあわせ検討。 評価 3
	今後の課題 高齢化社会に対応した活動への転換	今後の課題 地域包括ケアシステム構築等行政との役割分担の明確化	今後の課題 地域包括ケアシステム構築にあわせ、地区社協活動のあり方の再検証。
②組織を持たない地区社協への支援。 (問題点の抽出)	該当する地区への支援活動は未実施。 評価 1	同左 評価 1	「組織を持たない」の定義が明確ではなく、現状ですべての地区社協が組織化されているため、評価対象外とする。 ※評価対象外とする。 評価 1
	今後の課題 難しい問題もあり、逐次。	今後の課題 同左	今後の課題
③自治会(町内会)、老人クラブ等の活動の洗い出しと役割の調整と見直し。	現状把握中 評価 2	各団体の活動はまとめた。その結果を基に課題抽出の予定であったが、行政との地域包括ケアシステム構築のテーマが発生のため中断。 評価 2	地区社協の年間活動計画は一覧表として可視化できているが、他団体事業の確認に至っておらず、各社会資源を統合したマップの作成が遅れている。 評価 2
	今後の課題 早期の現状把握と見直しを期待する。	今後の課題 地域包括ケアシステム構築等行政との役割分担の明確化。	今後の課題 地域資源マップの早期作成。